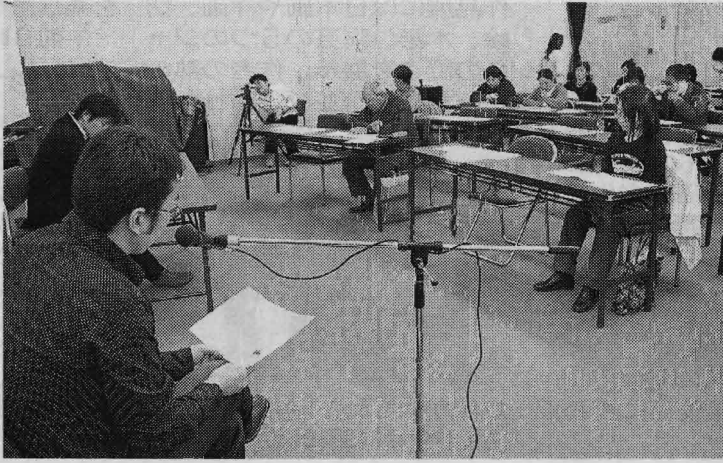


歯切れ、リズム大切に

エッセー講座
朗読聴き推敲学ぶ

館 林



田山花袋記念文学館かきたいもん講座「はじめの一枚エッセー」の朗読・鑑賞編が二十五日、館林市立図書館で開かれ、市民約三十人が参加した。

同講座は、市教委が館林出身の文豪田山花袋に関心を持ってもらい、市民の文学活動を推進しようとして、昨年度からスタート。第二弾の今年は、館林の魅力を原稿用紙一枚（約四百字）のエッセーで表現することを目的に

朗読を聴いて推敲技術を学ぶ参加者

開催した。

市内在住のジャーナリスト、橋本淳司さんを講師に迎えて実施。参加者は、十一日の初回講座の受講生が書いた城下町、つつしが岡公園、名物など館林にちなんだエッセー十九編をプロのナレーター、小沼朝生さんの朗読でじっくり聴きながら、文章の歯切れやリズムを確認。①一つのテーマ②つかみ（トピック文）、おとし（まとめ文）③表現にひと工夫の三つのポイントに分けて、推敲する技術を学んだ。

橋本さんは「エッセーはシンプル・イズ・ベスト。知っている情報をすべて書かず、思い切った削ることも大切」とアドバイス。小沼さんが「短い文章は読みやすい」と続けると、参加者はしきりにうなずいていた。